

プログラム

プログラム I-1

誰のための講座だろう？ ～参加者が主体的に話し合うためには～

エピソード

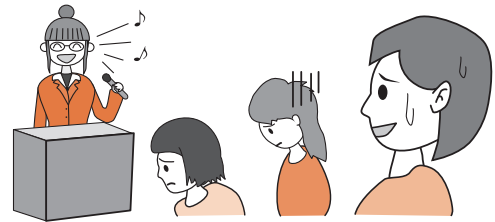
小学生の子どもを持つアサコさんは、地域の家庭教育支援団体が主催する家庭教育講座に参加することにしました。初日の今日は、講話のあとにグループワークがあり、同じ年頃のお母さん達と講話の感想などを話し合っていました。

ところが、グループワークが20分くらい早く終わりました。アサコさんは「せっかくだから、もっと、おしゃべりしたいわ。」とつぶやきました。同じグループの人たちもうなずきました。すると、突然、

「時間が少し余りましたので、私の経験をお話しします。私には子どもが・・・」と、主催者のマナミさんがマイクを握り、自分の子育ての体験談を始めました。

「えー。」アサコさんは、がっかりして周りを見ると、みんなも下を向いています。

マナミさんは、得意げに話し続けています。



ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。
アサコさんや参加者の気持ちを考えてみましょう。

ワーク 2

主催者のマナミさんはどのようにすればよかったのでしょうか？

ワーク 3

参加者が主体的に関わるためには、どんな方法があるのでしょうか？

ふりかえり

どんなことに気づきましたか。

プログラム I-2

聴くことの大切さ ～相手の心に寄り添って～

エピソード

トシコさんは、家庭教育支援団体のメンバーです。今日は「子育てサロン」の日。担当のトシコさんは、お母さんたちの悩みを聴いてあげることが役目です。そこに、あかちゃんを抱えてシオリさんが、相談にやってきました。

シオリ：「あの一、子どもが1歳で」

トシコ：「男の子、女の子、どっち？私には、子どもが3人いて・・・」

シオリ：「あの一、この子がミルク」

トシコ：「ああ、ミルクを飲まないのね。それは・・・、私の・・・」

シオリ：「あの一、ミルクを離さ」

トシコ：「ああ、それは・・・」

シオリさんが、話しているそばから、支援者トシコさんは、話を最後まで聴かずに次々と話します。

シオリさんは、うつむいたまま。

それでも、トシコさんは話し続けます。



ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合みましょう。

- (1) このときのシオリさんの気持ちを考えてみましょう。
- (2) このときの支援者トシコさんの気持ちを考えてみましょう。

ワーク 2

トシコさんはどのようにすればよかったのでしょうか？

ワーク 3

相談者は話を聴いてもらうことで相手はどのような気持ちになるのでしょうか？

ふりかえり

どんなことに気づきましたか。

プログラム I-3

地域でつながるために ～きっかけを大切に～

エピソード

ミナコさんは、家庭教育支援団体に所属しています。先日、団体が主催する子育て講座で司会をしました。

ある日、スーパーで買い物をしていたら、講座に参加したアキコさんに笑顔で声をかけられました。

アキコ：「こんにちは。この前の講座では、お世話になりました。」

ミナコ：「こちらこそ、参加してくださってありがとうございました。」

アキコ：「とっても勉強になりました。なんだか心が楽になりました。」

ミナコ：「それは、よかったですね。」

アキコ：「今度、また参加したいです。」

ミナコさんは、なんだか嬉しい気持ちになりました。



ワーク 1

エピソードを読んで次のことについて話し合きましょう。

- (1) アキコさんの気持ちを考えてみましょう。
- (2) ミナコさんの気持ちを考えてみましょう。

ワーク 2

参加者の心を開くために、支援者として必要なことはなんでしょう。

ふりかえり

どんなことに気づきましたか。